

# カトリック六甲教会 教会報

## 死者の月

キリスト教においては、死というものが神のみもとに帰り、永遠のいのちにあずかるということですから、亡くなった人の魂が永遠に安らかに憩うように祈りをささげることを行なうか、かねてから教えてきました。またわたしたちは生者同士の関係だけでなく、生者と死者との連帯関係にあります。故人が天国に入るためにはその霊魂があらゆる罪の汚れから清められ、神のみもとで永遠の幸福にあずかることができるように祈ることによって死者を助けるだけでなく、死者がわたしたちのために執り成しをしてくださることを信じるがゆえに、教会はキリスト教の初期時代から、死者の記念を深い敬愛の心をもって尊び、死者のための祈願をもささげてきました。

教会の典礼暦で11月2日は「死者の日」とし、亡くなったすべてのキリスト者を記念します。キリスト者の間では2世紀頃から死者のための祈りを唱える習慣が生まれ、次第にミサが伴うようになりました。亡くなったすべてのキリスト者を1年の特定の日に記念することは、7世紀初めにセビーリヤの司教インドルスが、聖霊降臨の祝日の翌日に死者を記念するミサを行なうように指示したことに始るとされています。さらに、諸聖人の祭日（11月1日）の翌日にすべての死者を記念する習慣は、998年にクリュニー修道院院長のオディロンによって始められ、その修道院の修道士たちの影響によって11世紀には広く行なわれるようになりました。ローマ教会には1311年の暦に始めて記されていますが、それ以前からローマでも死者の日の記念日が行われていたと思われます。この記念日は西欧諸国に広まり、15世紀には、スペインのドミニコ修道会で盛んに行なわれ、司祭がこの日に3回のミサをささげるようになったのもこの頃だといわれています。18世紀になる頃には、3回のミサの習慣が世界各地に広まり、1915年に教皇ベネディクト15世がこれをすべての司祭に許可することによって、全教会に広めました。現在はこのような規定はありません。

11月が「死者の月」として定着してきたのがいつからなのか定かではありませんが、死者への思いがミサをはじめとする様々な祈りの形で表され、それが広がりを見せ、伝統・習慣となって次第に死者の月になったと考えられます。

(カトリック中央協議会HPより)



## ナルドの花たより

経済発展は人間の顔を持たなければなりません。そうすれば、誰一人そこから排除されないのです。  
Economic development needs to have a human face, so that no one will be excluded.

貧しい人々のうちに、私たちのために貧しくなられたキリストのみ顔を見ます。  
In the poor, we see the face of Christ who for our sake became poor.

若者の皆さん、すべてを明け渡すことを恐れしないでください。キリストは決して皆さんを落胆させません。  
Dear young friends, do not be afraid to give your all. Christ will never disappoint you.

連帯することを学びましょう。連帯しなければ、私たちの信仰は死んだものです。  
Let us learn solidarity. Without solidarity, our faith is dead.

若者の皆さん、自由な心を主に求めてください。そうすれば、世の偽りの圧力に巻き込まれることはありません。  
Dear young friends, ask the Lord for a free heart so as not to be ensnared by the false pleasures of the world.

信仰は、ただ自分のためのたまものではありません。喜んで分かち合うために与えられます。  
The faith is not a gift just for me. Faith is given to be joyfully shared.

私たちは人生で、行き先知れずにさまよっているわけではありません。確かなゴールがあります。それは御父の家です。  
Our life is not a pointless wandering. We have a sure goal: the house of the Father.



<行事報告>

### 雨宮神父による聖書講座

9月19日(土)に宣教部主催で午前1時間半、午後2時間の講座が開かれました。参加者は75名となり、半数近くは六甲教会以外からの参加者で熱心に講義を受けておられました。参加者の中に洲本教会からわざわざお越しになった池長大司教の姿もありました。内容は聖書学者らしく緻密な解釈でしたが、「何を私達に語りかけているか？」を悟ることが大事であると指摘されました。(宣教部 藤原)

## 聖書講座に参加して

雨宮神父さまのおだやかな、それでいて力強いお話に、とても引き込まれました。特に、今回のテーマである『たとえ』についての具体的な解説は、初心者の方にも分かりやすく、原語で聖書に触れてみたいという大それたことを感じましたので、これからも学習を続けていきたいと考えています。雨宮神父様に、そして、このような貴重な機会を頂いたことに、深く感謝します。(KM)

\*\*\*\*\*

## 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

### 📖 教会学校

11月7日(土) バザー前日の為、休み

### 📖 三日月会

11月16日(月)14:00 ミサと懇親会

### 📖 宣教部

11月21日(土)11:00~15:00 黙想会

### 📖 地区会

11月14日(土)10:00 役員会

\*\*\*\*\*

## 《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

### ◆ 社会活動部より ◆

11月4日(水) 10時 手芸の集い (第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。

11月14日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グランドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

11月15日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

11月19日(木) 14時 ベタニアの集い

11月27日(金) 9時半 ともしび会ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

## ボランティアグループの紹介 その7 (社会活動部)

### 「こどもの里」支援グループ

1977年釜ヶ崎の聖フランシスコ会「ふるさとの家」の2階で生まれた子供たちの広場は、1980年「守護の天使姉妹修道会」が引き継ぎ、「こどもの里」として出発しました。

1999年修道会の撤退後、カトリック大阪大司教区が引き継いで下さり、松浦悟郎司教様を運営委員長として再出発しました。そして、2015年4月大阪教区からも自立し、「特定非営利活動法人こどもの里」として新たな出発を致しました。

現在、「こどもの里」の登録者数は100名ほどで、スタッフ7名は子供たちの遊びと学びの生活の場と相談を中心に社会の偏見や蔑視から守り、こども達が自信を持って自分の人生を選び進めるよう支援することをモットーにして、24時間フル活動しています。「こどもの里」ではこどもの保護者から会費はもらっていません。大阪市からの補助金とバザー、「こどもの里友の会」の支援費で運営しています。今、「こどもの里」は認定NPO法人取得を目指し、より充実した活動をしていきたいと考えています。

しかし、皆さまのご支援がなければNPO法人で「こどもの里」の活動を継続することは出来ません。私たちは、教会のバザーでの販売や



「こどもの里」前での路上バザーの応援に行っています。路上バザーでは、紳士用の衣類、石鹸、タオル、寝具類を販売しています。ご家庭でご不用の品物がありましたらご連絡ください。今後もカトリック大阪大司教区「こどもの里」の時と同様に、ご支援して頂けますよう心よりお願い致します。  
(蛭田)



## ◆ 典礼部より ◆

### 聖歌隊だより

現在、聖歌隊には、中学生から三日月会までの幅広い世代のメンバーが在籍しており、和気藹々と活動しています。10月から、本格的にクリスマスに向けての準備を始めました。

12月23日に行われる「クリスマス音楽の集い」では、聖歌を含め、なじみのクリスマスソングを皆様と楽しめるように歌います。また、24日のクリスマスイブのプレミサでは、会衆とご一緒にクリスマスの喜びの聖歌を歌えるように練習中です。

まだ練習は始まったばかりです。今年のクリスマスは聖歌を歌って迎えたいと思われている方、どうぞ聖歌隊練習にお越しくください。どなたでも歓迎いたします。

#### ♪11月、12月の練習予定♪

- ・11月7日(土) 10時～12時
- ・11月22日(日) 11時15分～12時半
- ・12月12日(土) 10時～12時
- ・12月20日(日) 11時30分～終了時刻は未定

☆上記の他、臨時練習を数回予定しています。

主日の10時ミサ前練習は、9時～9時半まで(但しバザー当日はお休み)

(聖歌隊代表 清水)



### お知らせ

11月8日(日) 9時後 チャリティーバザーが行われます。  
当日のミサは**10時から9時に変更**となりますので、ご注意ください。  
また、前日の土曜日はバザーの準備がありますので、お時間のある方はお手伝いをお願いします。(集合時間は週報をご覧ください)

## ◆ 宣教部より ◆

### 「秋の黙想会」のお知らせ

典礼暦年もいよいよ終わりに近づいて参りました。待降節を前にして、今年も宣教部主催の「秋の黙想会」が開催されます。短時間ではありますが、この一年を振り返り、また新たな待降節を迎える準備の機会として、多くの方のご参加をお待ちしております。

- 開催日：11月21日(土)
- 時間：午前11時～午後3時（14時～ミサ）
- 会場：六甲教会主聖堂
- 指導司祭：赤松広政神父様
- テーマ：「3人の預言者」
- 参加費：無料



事前申し込み：主聖堂入り口のチラシの申込書に記入の上、所定の箱にお入れ下さい。  
ただし、当日参加も受け付けます。  
また昼食は各自でご持参ください。（暖かいお茶は用意いたします。）



## みんなの広場

### 聖人

11月1日は「諸聖人」の祭日、嘗ては「守るべき大祝日」だった。概ね平日だから真面目な信徒は守る口実に苦勞した。嘗て六甲中学校の創立記念日が11月1日だったのはそのための苦肉の策であった。11月2日、この日だけは全校生徒の前でミサが献げられていた。

カトリック新聞にもよく「列聖」「列福」の記事がある。いわゆる「聖人」「福者」は教会がつけた称号だが、教会がその称号をつけたから「聖人」「福者」になるのではない。聖書を読むと天国にも生前の行状によって至福に差があるようだが、「聖人」「福者」は共に死後今は神の至福に与っている人たちのこと、だとすれば我々も一人残らず「聖人」にならないと、これは究極のとんでもないことになる。

覚悟の程は？

11月2日は「死者の日」。最近あまり聞かなくなったが11月は「死者の月」とされていた。天国、神の至福に与るには穢れの全くない者でなければならないが、原罪の傷を受け継ぐ我々には容易には及ばないこと。神様は自業自得のわたしたちに「潔め」の場を設けてくださった。つまり「煉獄」。使徒信経に「聖徒の交わり」という一句がある。嘗ては「諸聖人の通功」となっていた。共にキリストの神秘体に属している我々は、煉獄の人々に代わってその償いをする事ができる。「免償」という。嘗ては「贖宥」とされていた。11月1日の午後から2日終日、一定の条件を満たせば煉獄の誰かに代わってすべての償いをする事ができる。志のある信徒はこの日何回も「全贖宥」を稼いだ。私の日記には、登山口にある「援助修道会」は「煉獄の靈魂援助姉妹会」と書いてあっ

た。11月1日と2日は一体とも言える。

教会報の原稿をどのように書いているのかとお尋ねがありました。神学の教科書を書くのではないから思ったことを思ったように書けばいいということでしょう。物々しいことはいらない、気楽に便箋に書いて提案箱にでも入れておけばよいのでは。特にジジ・ババには惚けないために絶対お奨めです。

編集者にはお気の毒だがどしどし原稿を送りましょう。書くだけなら自分のノートに書いておけばよいが他人様の目に触れるものということになるとそれなりの心構えが必要です。これが重要。私はパソコンにはほぼ1頁分の様式を作って、月末に題を選び思いついたことをその都度書き加え推敲を繰り返す（これも重要）、月初に纏めてEメールで送ります。書くことが目的だからそれで終わり。次を考えます。教会報もせいぜい利用しましょう。あしからず。

ヨハネ 三好

### 集いについて

10月3日(土)、久しぶりに阪急電車に乗って大阪梅田の近くのサクラファミリアの平和集会に参加させて頂きました。松浦悟郎さんに会って、お話できて、とても嬉しかったです。この書店は広くて素敵で、店員さんはとても気さくな方でした。

9月の六甲教会の音楽の集いは、とても素晴らしかったです。11月1日(日)をはじめ、今後の音楽の集いも楽しみにしています。よろしくお願ひします。9月の演奏後、思いもよらないことに、声楽家や演奏家の皆様の座談会にお誘い頂きました。ありがとうございました。今回は、岡山からいらっしやった方もおられました。

11月8日(日)のバザーでは是非とも人々の集いと交流を大切にさせて頂きたいと思ひます。グループ(内輪)でだべっていは(内輪話をしては)、ダメだと思ひます。

集いがある、音楽がある。そんな六甲教会が、私は大好きです。

(MAYA 702)



教会報12月号の発行は、11月29日(日)です。	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
編集会議11月22日(日)です。	〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
記事原稿は、11月15日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願 (広報部)	電 話 078-851-2846
<a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>	F A X 078-851-9023
	発行責任者 アルフレド・セゴビア
	編 集 広 報 部